



昭和60年3月に平和の村宣言を採択して以降、「占冠村教育を語る住民会議」が中心となり、ヒロシマ・ナガサキの惨劇を絶対に繰り返さず核も戦争もない平和な社会を願い、村内の中学生を広島県に派遣する「広島平和体験学習事業」を行っています。今回は生徒2人・引率2人が参加しました。ヒロシマの地から学んだことや感じたことを報告していただきます。

第38回 広島平和体験学習

「広島が乗り越えた壁」
占冠中2年 伊達 充寛

私は、今回の広島平和体験学習で原爆に対する恐怖を感じました。建物や人、動物など、何もかもを「瞬」にして吹き飛ばしました。この「瞬」の中には、さまざまな出来事があったそうです。

まず、米国軍の飛行機B29が投下した原子爆弾「リトル・ボーイ」が小さな赤い太陽を生みました。その後すぐにとてつもない閃光と爆音が広島に行き渡りました。これを「ピカドン」と言います。そしてピカドンの後には、熱線と熱風、放射線が全てを焼き払いました。建物はコンクリートでも関係なく破壊され、人々は3000、4000度の熱風などを受けたため、皮膚が溶けたり、顔をやけどしたりしました。もちろん爆風で亡くなった人も多いのですが、一番はその後に水を飲んでしまい亡くなる人が多かったそうです。人々はいままでの熱さに水のことしか考えられず、家の近くにある防火水槽や川に飛び込みました。水を飲んだ人は一人残らず死に至りました。川は死体で埋め尽くされました。広島

は地獄へと一変したのです。たった一つの爆弾が、地獄を創り出したのです。地獄を免れた人も体に紫色の斑点ができ、死に至りました。

私は、今回の平和体験学習で、広島の人々が地獄のような壁を乗り越えたことに非常に驚きました。広島の人々は家族やお金を失い、生きていくことが困難で苦痛だっただろうと私は思います。しかし、それでも諦めず、他の場所から援助を受け、今の広島があるのです。私は広島で命と平和の尊さを改めて実感しました。

平和体験学習を終えて
トマム学校8年

関谷 壮恭

平和体験学習で私たちは最初に原爆ドームに行きました。そこでは教科書でしか見たことのない世界がありました。とても頑丈そうな分厚いコンクリートの柱や壁がまるでおもちやのように崩れてしまっていることにとても驚きました。その後資料館に入ると、その場にいた人々の声や状況の資料がたくさん残っていて、原爆ドームを見て感じた原爆の怖さをさらに倍増させ

せるような光景が広がっていました。教科書などで戦争、原爆の悲惨さは知っていたつもりでしたが、実際に見てみるとその悲惨さは倍以上でした。その後被爆体験を実際にされた方からお話を聞きました。実際に経験された方は広島には約30人しか残っていないらしく、とても貴重な体験で被爆体験証言者の原爆への思いはとても強くに残りました。

そして2日目は現在残っている被爆建物を巡りました。被爆建物は都会な広島の中にたくさん残っていて、とても大切にされていることが伝わってきました。このように大切に守ってくれているおかげで私たちが原爆の悲惨さを忘れることなく感じることできていますので、これからも大切に保存していけるといいと思います。

このように実際に原爆が落ちた地「広島」に行ったら教科書や動画からだけでは分からない人々の声やその時の状況が理解できました。そしていかに戦争が残酷なもので繰り返してはいけないものなのかが分かりました。

原爆死没者慰霊碑に書かれている「安らかに眠って下さ

初めに原爆ドームを見た。感想としては、「教科書やニュースで見た本物だ」だった。厳かな雰囲気を感じ、集合写真を撮る際には「笑っていないのかな?」と居心地の悪さを感じた。原爆の子の像を見た。飾られた折り鶴の数に驚いた。慰霊碑を見た。覗き込んだまっすぐ先に原爆ドームが見える作りになっていた。平和資料館を見学した。海外

の方も多い印象だった。人々の戦争への関心の高さに驚いた。戦争というものを、はっきりと鮮明に捉えている。私にはばんやりとしか見えていなかった。被爆証言者の佐渡さんのお話を聞いた。原爆ドームは「産業奨励館」と呼ばれ、佐渡さんはそこでの楽しい思い出をお話してくださいました。そんな日常が一瞬で、悲惨な非日常になってしまいう過程をリアルに感じた。私の中で色のある日常と白黒写真が繋がった。

被爆建物巡りでは、新しい町並みの中に、当時の建物の一部が残っていた。残されていた。慰霊碑からまっすぐに原爆ドームが見えたときの不思議な気持ちとつながった。たくさんの方が、「当時の広

い 過ちは繰返させぬから」。この言葉をいつまでも大切に忘れることなく伝えていく、そしてこの願いが叶うようにしていこうと思いました。

広島を訪れて
引率者(保護者) 関谷 佑佳理

私自身、広島を訪れたのは二度目です。

一度目は小学校の修学旅行でした。もちろん、平和学習で原爆ドームや平和記念公園を訪れたとは思いますが、正直どのような内容だったのか覚えていません。小学校の修学旅行以来の広島訪問でしたが、戦争や平和について考える機会となり、いままでに感じるこのできなかった思いを感じるようになりました。



佐渡さんは、自ら被爆体験を伝える「被爆体験証言者」で、現在は30人ほどしかおられないとのこと。実際に被爆された体験を聞いたことは、大変貴重な経験だと改めて感じました。

佐渡さんは、自ら被爆体験

広島平和体験学習引率を通して
引率者(教諭) 長瀬 桃果

北海道生まれ、北海道育ちの私にとって、戦争とは教科書の中にしかないもの、遠い昔の、白黒写真のようなものだった。毎年夏の報道で、「戦後何十年」という数字が増えていくなど感じる程度だった。

